



前橋開館記念展
販売中のアーツ
この年表は現在
なっています。
興味深く読んで
もらえるものに
なっています。
この年表は現在
販売中のアーツ
前橋開館記念展

これまで開講したアーツスクールは、講師と受講生が対話形式です。すめる講座です。テーマは美術や地域に根差したもので、アーツ前橋では現在までに7つの講座を開きました。平成23年度の「美術をかたる」では富岡市立美術館・福沢一郎記念美術館館長の染谷滋さんを講師に迎え、戦後前橋の歴史に知見を深め、昨年度の「前橋文化年表プロジェクト」へつながっていききました。この年表は戦後前橋の美術だけでなく、生活文化全般を含んだ年表となり、美術に関心のある人もそうでない人にも興味深く読んでもらえるものになっています。この年表は現在販売中のアーツ前橋開館記念展

アーツスクール

アーツ前橋探検

vol.10



「カゼイロノハナ」図録に掲載されています。

昨年度開講した「マエバシ文化発信局」では、受講者がまちなかの魅力を探りました。ZINE「うしろあき」も発行しました。本年度はメディアを映像に変えて、映画監督の藤橋誠さんらを講師に招き、地域の魅力を発信するスクールを実施しました。

このようにさまざまなテーマで開講するアーツスクールの楽しみは、個人の知見を深めることにとどまらず、講師や受講者同士の親密な交流や共同作業で成果を得ることです。この「うしろあき」は、その後も受講者が、交流とスクールで得たノウハウを基に発行しています。アーツ前橋のスクールは受けるだけでなく、ここで得た知識や交流を生かして、次の活動につながる参加者も少なくありません。学校とはひと味違うアーツ前橋のアーツスクール。関心のあるテーマを見つけたらぜひ受講してみてください。

問い合わせは
アーツ前橋 ☎027-230-1144

明日につながる観光振興を目指して



赤城山雪まつり実行委員長
塩原 勲さん 49歳
富士見町赤城山

2月1日(土)に赤城山第1スキー場などで開催される「赤城山雪まつり」の実行委員長を務めている。同祭りは「体験はコピーできない」をテーマに、エアボードやワカサギ釣り体験など、冬の赤城山ならではの催しが満載だ。「その場限りではなく、皆さんにも一度行きたいと感じていただける、赤城山観光の未来につながるような雪まつりにしたいと思っています」今シーズンは、塩原さんが管理する赤城山第1スキー場に新しくスノーエスカレーターが登場した。「ベルト式でゆつくり動くエスカレーターなので、小さなお子さんも安心して、皆さんで遊びに来てください」赤城山の観光振興を目的に、住民有

志が中心となって活動する「AKAGIやる気塾」の副塾長でもある塩原さん。同塾では、白樺クーヘンやしるこチョコなどオリジナルグッズを考案し、新しい魅力を生み出している。「行政の手助けを受けるだけではなく、自分たちで仕掛けて、自分たちで着地させる。そういうスタンスこそ、今の時代に必要だと考えています。これから、仲間と手を取り合って、赤城山の魅力を発信していきたいです」塩原さんは、大沼山荘や赤城山頂駅記念館サントリービア・バーベキューホールなどの運営も手掛けている。多忙な毎日だが、未来を見据える目は輝いていた。これからも熱い思いを胸に、赤城山を盛り上げていってほしい。



新年の思いを筆に込めて

1月6日、前橋プラザ元気21で新春中公書き初め塾を開催。日頃から中央公民館で活動している書道団体が講師を担当しました。小3から小6までの児童73人に、丁寧な指導を実施。子どもたちは、真剣なまなざしで「書」と向き合っていました。



新春の上州路を駆け抜ける

1月1日、元日恒例のニューイヤー駅伝が本市を発着点に開催されました。各地の予選を勝ち抜いた37チームが7区間、100kmを疾走。沿道では声援や和太鼓演奏でランナーを後押し。2連覇を目指したコニカミノルタが8度目の優勝を飾りました。



水と光が作り出す幻想世界

12月21日から1月15日まで、前橋公園でライトアップを実施しました。利根川沿いの親水・水上ステージゾーンでは、噴水を色とりどりの照明でライトアップ。冬の澄み切った夜空の下、訪れた人たちは水と光が作り出す幻想的な風景に魅了されていました。



リユースの輪が広がる1日

12月21日、グリーンドーム前橋で「リユース宝市」を開催しました。家庭で眠っている再使用可能な物を募集し、無料で提供することのイベントに、市内外から多くの人々が来場。育児用品や生活雑貨など、約4tの品物が新しい持ち主に渡りました。